

～2015年ノーベル文学賞受賞記念～

神田香織 公演

「チェルノブイリの祈り」

2007年度(平成19年)文化庁主催芸術祭参加作品



「チェルノブイリの祈り」

講師が
語ります。

神田香織

2016年10月1日(土)

18:30～20:30(開場:18:00)

★講談 『チェルノブイリの祈り』

★料金 前売り 1500円 当日 2000円

小学生(高学年)、中、高生 1000円

★会場 さいたま市産業文化センター

さいたま市中央区下落合 5-4-3 048-854-0486

埼京線与野本町駅徒歩7分 京浜東北線与野駅徒歩10分

★後援 埼玉県、埼玉県教育委員会
さいたま市、さいたま市教育委員会

朝日新聞さいたま総局、読売新聞さいたま支局、
毎日新聞さいたま支局、東京新聞さいたま支局、埼玉新聞

「何をお話しすればいいのか、わかりません。死について、愛について・・・」

消防士の妻から始まる物語。チェルノブイリ原発事故で人々は何を考え、どのように行動したのか、どうなったのか、ベラルーシのスペトラーナ・アレクシエービッチさんは1996年、事故から10年後に『チェルノブイリの祈り—未来の物語』に書き、2015年ノーベル文学賞を受賞しました。それを鋭い感性で受け止め、神田香織さんは2002年から講談にして、語り続けています。

授賞理由でスウェーデンアカデミーは、アレクシエービッチさんの作品について「多様な声を集めた著作は、苦しみと勇気の記念碑だ」と称賛。ダニウス事務局長は「文学のあらたなジャンルを生み出した」と述べた。新聞や文芸誌の記者を経て、第二次大戦で従



2015年10月9日東京新聞朝刊(共同通信配信)

【ストックホルム共同】スウェーデン・アカデミーは八日、二〇一五年のノーベル文学賞を、チェルノブイリ原発事故で被害を受けた人々の証言を集めたノンフィクション作品「チェルノブイリの祈り」などで知られるベラルーシの作家でジャーナリスト、スペトラーナ・アレクシエービッチさん(六七)に授与すると発表した。 関連②③面

ノーベル文学賞 ベラルーシ作家



軍したソ連の女性たちの証言を集めた「戦争は女の顔をしていない」(一九八五年)で作家デビューした。東京電力福島第一原発事故後、二〇一二年三月に日本で開かれたシンポジウムにメッセーシを寄せ、原爆投下とチェルノブイリ事故後、「人間の文明は「非核」の道を選択すべきではなかったのか」と指摘。「私がチェルノブイリで目にしたような姿に世界がなってしまうために、別の道を模索すべきだ」と訴えた。

主催

「チェルノブイリの祈り」
神田香織さいたま講談実行委員会
さいたま市中央区本町西 2-2-24

カフェギャラリー南風内 ☎ 048-764-8850

★山田 chizuko0913@aol.com (090-4600-1027)

★野田 cnoda@email.plala.or.jp (090-7702-4939)

★荒畑 (090-3008-1507)

＜神田香織 プロフィール＞

1986年「はだしのゲン」発表 1988年「はだしのゲン2」発表
1989年真打昇進 2002年「チェルノブイリの祈り」発表
2008年「フラガール物語」発表 2013年「福島の祈り」発表
その他のオリジナル作品「いわき発安寿と厨子王物語」「米軍ジェット機墜落悲しみの母子像」その他多数。1986年「講談はだしのゲン」で日本雑学大賞受賞 2010年松井やよりジャーナリスト特別賞受賞著書「花も嵐も講師が語ります」